

だれもが安心して 国産のコメを食べられる日本農業を



日本に農産物の市場開放を強要してきたアメリカ。自動車大手の利益のために、日本の食と農業を犠牲にしてきた歴代自民党政権——この2つのゆがみにメスを入れる政党が、国会で大きくなってこそ農政チェンジは実現できます。

農家をささえる
価格保証・所得補償を

緊急に農業予算を
1兆円ふやす

備蓄米は、リスクに
そなえて2倍にふやす

輸入の拡大をやめ、
日本農業をまもる

歯止めなき自由化

60年代	麦・大豆
80年代	牛肉・かんきつ
90年代	WTO農業協定でコメまで輸入
2000年以降	TPP、日欧EPA、日米貿易協定などで 巨大自由化を次ぎ



アメリカいいなり、大企業中心の政治を変え
日本のコメをまもりましょう

Q 値段が2倍に! なぜ?

コメ5kgの
小売平均価格
の推移

1,890円
2023年5月

4,225円
2025年4月

A 「コメは足りてる。生産を減らせ。値段は市場が決める」と、生産と供給の責任を投げ捨ててきた自公政権です。そのしわ寄せが今日の事態の元凶です。

Q 不足・高騰の 解決策は?

175万戸
2000年

140万戸
2005年

コメ農家は
3分の1に激減
農林業センサスの資料などより

71万戸
2020年

53万戸
2024年

A 国の責任で農家がコメづくりを続けられる価格を保障し、消費者に手ごろな値段で提供する。こうすれば価格は下げられます。増産の政治にチェンジを。

Q 備蓄米放出で ゼロとなれば危険

約205万t

2000年前後

備蓄米の量

91万t(昨年6月)

放出
80万t

残
10万t

A 2000年前後は約200万トンあった備蓄米。小泉大臣は「全部放出」と言いますが、いざというとき“備蓄ゼロ”では危険です。



衆議院議員

たつみこうたろーが
お話しします

日本共産党街頭演説会

6月22日(日)午後2時・草津駅東口

参院選直前の演説会です。佐藤こうへいもお話ししますご参加ください

やす民報

日本共産党野洲市委員会
2025年6月15日 No.589

市政・市議会へ
ご意見ご要望を
お寄せください

小菅康子 比江 668-3 (電話・FAX) 589-4971
工藤義明 小篠原 879 (電話・FAX) 588-1856
野並享子 北野 1-7-10 (電話・FAX) 587-0985
東郷正明 比江 864 (電話・FAX) 589-4158

日本共産党野洲市委員会が見解を発表しましたのでお知らせします

ホームページをご覧ください

共産党野洲市議団 検索